

議会運営委員会行政視察報告書

- 1 視察日程 令和4年4月25日（月）から
令和4年4月26日（火）まで

- 2 視察先及び項目
 - (1) 愛知県知立市 議会モニター制度について
高校生議会について
議会のICT化について
 - (2) 愛知県江南市 市民と議会との意見交換会について
タブレット端末の利用について

- 3 参加者 委員長 水上 洋志
副委員長 片山 かおる
沖浦 あつし
白井 亨
五十嵐 京子
小林 正樹
渡辺 大三
議長 鈴木 成夫
副議長 遠藤 百合子
随 行 北村 高（議会事務局長）
山浦 勉（議会事務局）

- 4 視察概要 別紙1のとおり

- 5 視察収支報告 別紙2のとおり

(別紙1)

視 察 概 要

【視察日程】 令和4年4月25日

【視察先】 愛知県知立市

【視察項目】 議会モニター制度について

【視察目的】

議会モニター制度について視察し、市民の意見を議会活動に反映する等、今後の広聴活動の検討に役立てるため

【取組の概要】

1 議会モニター制度の概要

議会の機能強化の一環として、市民から選ばれたモニターの意見を活用し、より良い議会運営を目指す市民参画制度として、2021年度（令和3年度）から開始した。

初年度は、議会モニターとして7名を任命し、第1回モニター会議を4月14日に開催した。モニター会議では、法政大学法学部の土山希美枝教授に講演を依頼し、「市民と議会の関わり」について聴講した。モニターには、定例会や議会報告会の傍聴を始め、市議会だよりや市議会ホームページ等についても、様々な意見を出してもらうことにした。また、2022年（令和4年）3月19日に、議会モニターと正副議長、議会運営副委員長、議会改革特別委員との懇談会を開催した。

2022年度（令和4年度）は、昨年度と同様に7名を任命し、同様の講演を聴講している。

2 議会モニターの職務・役割

(1) 本会議及び常任委員会を積極的に傍聴し、議会運営の見聞を広めるとともに、議会運営に関する意見を文書で、議長に提出する。

(2) 議会報告会、市議会だより及び市議会ホームページに関する意見を文書で、議長に提出する。

(3) 議会が行うアンケート調査に回答する。

(4) その他、議長が必要と認めたもの。

3 議会モニターの定数・募集方法等について

(1) モニターの任期は、1年とし、1回限り再任を認める。

(2) モニターの募集は公募による定員3人程度、推薦依頼による定員は4人程度である。推薦依頼は、議長が適当と認めた団体等に依頼する。

(3) モニターは無報酬としている。

4 モニターから提出された意見等の処理

(1) 議長が議会改革特別委員会委員長に送付し、検討させる。

(2) 議会改革特別委員会委員長は検討結果を報告書にまとめ、議長に提出する。

(3) 議長は本報告書を、意見等を提出したモニターに提示するとともに、市議会ホームページに掲載し、市議会だよりに概要を掲載する。



【所感、課題等】

委員 1

市民の声を聴くという点について、意欲的に取り組まれていた。7名の構成員のうち、4名を市内各種団体から選ぶものの、毎年団体を固定せず多様な意見を聴くやり方は秀逸。モニターからの要望に基づき懇談会を実施するなど、完璧に作り上げてから実施するのではなく、まずはやってみて運用上で柔軟に変えていく姿勢はとても参考になる。

委員 2

議会基本条例にのっとり議会活動に市民の声を反映するために議会モニター制度を始めたとのことで、熱心に取り組んでいる様子がわかった。また、7人のモニターを公募や団体推薦など具体的にして始めた経験談が大変参考になった。さらに、数人のモニターと意見交換などを行うのか、一定の数のモニターを依頼してデータをとるなどの方法をとるのか、様々な方法があるのではないかと改めて思った。

委員 3

議会運営及び議会広報に市民の意見を反映する本取組について、初めて実施議会と意見交換をさせていただいた。7名のモニターが独任制であり合議体ではない点、モニターの職務範囲を超えた提言に及ぶ点等の課題もある中、本制度により議会報の紙面改革につながった点が参考になった。他自治体では議会報への市民意見の反映に特化した議会報モニター制度もあり、どこに焦点を当てていくか検討の余地があると考えます。

委員 4

知立市議会さんも試行錯誤をしながらの実施ということで、大変に参考になった。独任制の制度ということもあり、市民モニター個々人の熱意と考えによって、頂くご意見も様々である。議会のモニターということだが、どうしても政策的なご指摘にならざるを得ず、別の懇談会の場を設けるなど工夫が見られた。ご意見への対応についても難しいものを感じる。団体推薦枠などを決めることには小金井市議会では時間を要すると感じた。

委員 5

興味深い制度ではあるが、一部の人の意見が重視される形になるのではないかと懸念もある。小金井市議会を導入するには、請願・陳情制度などとの精査が必要。

委員 6

議会モニター制度は、2021年から始まった新しい制度である。議会報についての改善など市議会の活動に市民の意見を反映させる点で効果があったとされている。モニターの職務は、議会運営に関することや議会の広報などについて意見を述べることである。現在、広聴活動について議会改革で議論を行っている中で、参考になる取組であった。今後の研究課題としていきたい。

委員 7

令和3年度に制度を導入した。モニターの定数は7人（公募3人、団体推薦4人）で任期は1年である。モニターによる懇談会（読んでもらえる市議会だより、をテーマに）も実施している。まだ導入して間もないので、モニター制度導入の効果が発揮されるのは今後のことになると思われるが、議会活動に対して第三者の目から意見を頂戴することは有意義であり、小金井市議会においても導入を検討すべきである。

視 察 概 要

【視察日程】 令和4年4月25日

【視察先】 愛知県知立市

【視察項目】 高校生議会について

【視察目的】

高校生議会の取組を視察し、議会におけるシチズンシップ教育の推進に関する検討に役立てるため

【取組の概要】

1 議会報告会と高校生議会の開催の経過

知立市議会は、議会基本条例の「市民に開かれた議会」として、議会報告会の開催を2011年度（平成23年度）から定例会ごとに開催してきた。新型コロナウイルス感染症の影響で、会場開催を見送り、委員会報告をホームページに掲載し、メールで意見を募集したり、オンライン会議システムで開催するなどの工夫をして市民との交流を行ってきた。

2021年（令和3年）8月の議会報告会は、市制50周年・市議会50周年を記念して初めて高校生議会を開催した。なお、委員会と市民・団体との意見交換会や出前講座の開催なども行っている。

2 高校生議会の取組内容

(1) 選挙年齢の引下げにより、政治や選挙が身近なものとなった高校生に、議会活動を体験してもらい、地方自治への関心を高めてもらうとともに、高校生の視点から広くまちづくりについての意見を聞き協議する機会を設けることを目的として、「高校生議会」を開催した。



市内にある3つの高校から選出された生徒17名が高校生議員となり、次のような流れで実施した。

ア 本会議（前半）

各校の代表質問（各校で話し合ってきた課題についての質問）を行う。

(ア) 知立高校 「LGBTの生徒に対する対応について」

(イ) 学校法人山本学園 「知立の交通整備」

(ウ) 知立東高校 「市内の子どもたちの縦のつながりと教育について」

イ 委員会

各校別の委員会を設置し、それぞれに市議会議員が分かれて参加し、課題について生徒と市議会議員と一緒に協議する。

ウ 本会議（後半）

委員会での協議結果を基に、高校生委員長が委員会報告する。

(2) 公立高校2校、私立高校1校に対して、議会から各校へ訪問し、高校生議会開催の趣旨説明を行うことからスタートした。その中で、高校から開催の要請があったため再度開催した結果、議会と学校双方からメリットがあった旨が報告された。また、参加した高校生からは、「議員を身近に感じた」等の感想が寄せられた。

【所感、課題等】

委員 1

これまで市議会として特につながりになかった市内の公立2校、私立1校へ趣旨を説明するところからのスタートは我が市議会と同じ状況である。結果的に理想として描いていた政策提案には至らなかったものの、学校側からは再度実施の要望があり、今後も継続することになったのは、やはり高校のニーズに合致することが、実施を通して実感できたからではないか。ぜひ小金井市議会でも思考錯誤しながらを前提に、まず1回実施したい。

委員 2

小中学生の子ども議会とは違い、議会の役割や制度を、実際に委員会を開催して体験してもらうなどの工夫は、参考になった。何のための高校生議会か、何を感じ勉強してもらうか、をよく事前に検討する必要があると感じた。

委員 3

もともと行政側で子ども議会（中学生）を開催していた経緯があり、受け入れてもらえる土壌があったとも言えるが、高校生議会を企画するに当たり、生徒たちと議員が事前にまち歩きをして、身近に感じてもらうための努力をしていたことも分かった。本市議会においても、全議員が前向きであれば、高校生たちと接点を持てる方法はあるか高校側に率直に伺ってみて良いのではないかと思う。

委員 4

中学生議会を行政が行っている背景がある中で、議会主導で高校生議会を開催されているご苦労も伺えた。交通対策などのご要望にも応えながらも、議論のプロセスを大切にされていた。今後は政策立案につなげたいとのこと。一過性のものではなく、議会の図書スペースを高校生の勉強場所として開放されるなど様々な工夫が見られた。18歳の投票率も全国平均より10%高かったとのこと。本取組もその一端を担っているものとする。

委員 5

本会議から委員会付託するなど、本物の議会のルールにのっとって議事を進めているのが興味深い。高校生との意見交換はぜひやってみたい。議員とのフラットな交流の成果か、18歳の投票率が全国平均と比較して10%高いというのは素晴らしい。目に見える成果である。

委員 6

高校生議会の開催により、議員を身近に感じたなどの感想が出され、請願・陳情の受付やプロセスを学んでもらったことが重要で、主権者教育を進めていく上で学校ともお互いのメリットがあったと説明された。こうした取組で、10代の投票率が上がったのではないかと紹介されていた。シチズンシップ教育について議論を重ねてきたが、今後の検討に役立ていきたい。

委員 7

市内の公立2校、私立1校から高校生議員を募り、本番では、①代表質問、②学校ごとに委員会に分かれての協議、③本会議での委員長報告、の3部仕立てで開催されている。若年層に市政への関心を持ってもらう一助として、小金井市議会においても毎年定例で開催していくべきものとする。

視 察 概 要

【視察日程】 令和4年4月25日

【視察先】 愛知県知立市

【視察項目】 議会のICT化について

【視察目的】

タブレット端末等の導入について視察し、議会におけるタブレット端末導入等の検討に役立てるため

【取組の概要】

1 タブレット端末導入に至る経過

(1) 2011年（平成23年）4月に、議会改革検討項目にICT化を明示した（インターネット録画配信・LIVE中継、会議録検索システム、タブレットの導入、電子機器使用許可、文書の電子化、メール配信）。2012年（平成24年）から先進自治体の視察を行ってきた。

その後、インターネット動画配信や会議録検索システム導入、議場に大型モニター設置と電子表決システムの導入、議会資料のホームページ公開などが実施されてきた。

(2) 2020年（令和2年）2月に、「タブレット端末及びスマートフォン使用に係る運用基準」を制定し、一部の会議でのタブレット等電子機器（私物）の使用を許可した。

(3) 2020年（令和2年）5月に、コロナ禍で「書面・対面・接触」のリスクを回避する中で、「議論を止めない」「公開を止めない」ために電子化・オンライン化の必要性が再認識された。

(4) 2021年（令和3年）2月に、タブレット端末を導入した。同年5月に、議会DX（デジタルトランスフォーメーション）推進PT（プロジェクトチーム）を発足し、更に有効活用するための検討が行われている。

2 タブレット端末導入の効果

(1) 紙資料が減少し、紙代・印刷代・管理労務費が削減できた。

(2) 資料閲覧が簡単になり、労力時間が節約できた。

(3) データを携行することで、市民への説明の際にも有効に活用できた。

(4) 情報の送受信が迅速になり病無の迅速性が向上した。

(5) オンラインで会議を開くことができるため、時間場所を問わなくなった。

3 オンラインの活用

2020年（令和2年）9月に、委員会条例を改正し、オンラインでの委員会開催が可能となった。その後、オンライン委員会運営要綱を策定した。

なお、オンラインでの委員会開催は行われていないが、議会報告会はオンラインで開催している。



【所感、課題等】

委員 1

タブレット端末の導入のきっかけは、あくまで新型コロナウイルス感染症であった訳だが、重要なポイントは、議会としての権能を果たすための環境整備という点である。デバイスが異なると、いざオンラインでの会議という時に機能に差異が生じるのは公平ではないという観点であった。小金井市議会でも、災害時や育休・産休後、またその復帰前後、障がいのある方の活動の保障も含めて導入に向けての具体的な議論へ進化したい。

委員 2

新型コロナウイルス感染症が、感染前の準備に加えて、感染拡大後はデジタル化を後押ししたということだと思うが、委員会運営要綱を作り、委員会開催の次第書まで用意をし、いつでもオンラインで委員会を開催できるところまで進めたことは素晴らしいと思った。委員会条例の整備など具体的で参考になる事例であった。

委員 3

オンラインでの委員会開催ができるよう、委員会条例の改正や委員会運営要綱をまとめている先進事例を目の当たりにした。ただ、一足飛びであったわけではなく、ペーパーレス会議システム導入を経るなど着々と段階を踏んできていた。本市議会においては、タブレット導入をすることへの全議員の同意は必要であるが、細部の検討に当たってはプロジェクトチームを発足させて協議するなど、スピーディーな展開が必要と考える。

委員 4

タブレットの導入は新型コロナウイルス感染症の補助金を活用することも視野に入れてスムーズに検討が進められていた点が素晴らしいと感じた。総務省の条例改正を受けて、オンラインの委員会開催についても常任委員会での正式実施はされていないもののリハーサル実施まで済まされている。非常にスピーディーな決断がされている。小金井市議会においても、環境を整えていざと言う時に備えておく必要性を強く感じた。

委員 5

オンライン委員会の要綱などは参考になるが、今後の課題が大きいと考える。

委員 6

議会のデジタル化について、オンライン委員会運営要綱の策定や有事の際に「公開・活動・議論」を止めないとして、プロジェクトチームを発足するなど意欲的な取組を行っている。デジタル化についてのこれまでの努力とともに、新型コロナウイルス感染症によりその必要性が認識されたことが大きかったと説明された。タブレット端末・グループウェアの導入の検討に役立てていきたい。

委員 7

議会内にPTを設置したが、精通した議員と、そうでない議員の組合せで構成している点は興味深かった。ICT化を単にペーパーレスに役立てるだけにとどまらず、情報収集、情報処理、情報伝達、情報共有などに複合的に役立てることにより議会に活性化に繋げていた。小金井市議会は議員要求資料が多いなどソフトは充実しているので、ICT化を加速させ、行政、市民との情報共有、それに基づく接点の拡大に繋げていくべきであろう。

視 察 概 要

【視察日程】 令和4年4月26日

【視察先】 愛知県江南市

【視察項目】 市民と議会との意見交換会について

【視察目的】

市民と議会の意見交換会について視察し、議会によるシチズンシップ教育を含めて市民との意見交換についての検討に役立てるため

【取組の概要】

江南市議会は、2014年（平成26年）から市民と議会の意見交換会を実施している。市民の誰もが参加でき（市外の方でも参加可能）、2020年度（令和2年度）からは、新型コロナウイルス感染症の影響により団体との意見交換会を行っている。

1 意見交換会の開催

- (1) 議会基本条例実施要綱に基づいて行っており、市民を対象とした場合、最初に全体会で議会報告を行い、その後、常任委員会ごとに分かれ、市民との意見交換を直接行っている。
- (2) 団体との意見交換会は、青年会議所、災害協力会、NPO法人コミュネット、高校、中学校で行っている。議会改革特別委員会で企画し、各派代表者会議で了承後、各常任委員会等に依頼している。相手方の選定方法についての検討も行っている。

2 市民から出された意見の対応

- (1) 議員間の意見の異なりはあるが、特段の調整はしておらず、議員個人の責任の下で発言している。
- (2) 市民から出された意見で実現したものとして、小・中学校の支援員の増員、リサイクルステーションの案内看板の設置、小・中学校のトイレ改造、新図書館の整備などがある。

3 中学校・高校での意見交換会

- (1) 選挙権が18歳に引き下げられたことを受け、若い世代に選挙や政治に興味を持ってもらいたいとの意見が議員から出されたことにより実施に至った。
- (2) 議会改革特別委員会で対象となる高校を選定し、委員長が学校に出向き、趣旨・目的を説明したところ、学校側で生徒を募集することになった。中学校については、教育長を通じて各中学校長にお願いし、中学校ごとに参加者を集めることになった。
- (3) 意見交換のテーマは、中学校・高校ともに生徒側が考えた。当日は議員との意見交換に緊張することも想定されたので、導入部分で議会の様子を見てもらうため、タブレット端末で一般質問の様子を紹介したり、学校に関するクイズを出すなど工夫した。
- (4) 中学生・高校生の反応は、実施に肯定的な意見がほとんどであった。「議員のお仕事を知ることができた」、「選挙権を取得したら投票に行きたい」、「今後も継続してほしい」などの意見が出されたほか、地域課題についての要望も伝えられた。



【所感、課題等】

委員 1

感染症の影響を受け、全市民を対象に実施してきた意見交換会を、対象者を限定して行う新たな形で実施している点はとても良い。参加者が固定化される傾向のあったこれまでの意見交換を、様々な団体等から多様な意見を聴く取組に変えている。特に市内中学生との懇談会は、参加した中学生の感想を拝読したところ、普段話す機会のない市議会議員との対話の機会での気づきが多かったことがわかり、ぜひ我が市議会でも実施したい。

委員 2

新型コロナウイルス感染拡大以前は、100名を超す市民が来場し全体会を開催後、委員会ごとに分科会に分かれて意見交換をするという活動を、年に2回程度実施している。紙面で紹介されている報告を見ると、市民からの意見を基に調査をしたり議会で発言をしたりと、市民代表としての議員の在り方の一例であると思った。

委員 3

議会報告会や意見交換会で市民から出された意見に対して、議会はどのように対応しているかを注目した。速報版としてまずはどんな意見があったか広報し、その後、常任委員がそれぞれの判断で一般質問等を行い、それに対する当局の答弁や、直接市に要望し回答を得た内容をまとめとして、再び広報に掲載するという2段階作業をしていた。議会として一つの答えを出すわけではないが、より丁寧に対応する姿勢は見習う点であると考え

委員 4

議会基本条例の実施要項で定めての実施。コロナ禍において中高生向けに「江南市の未来を語ろう」というテーマでの実施などをされており興味深い。頂いた意見の取扱いは常任委員会へ振り分けて判断しているとのことだが、特に回答の調整などは行わずに質疑を行っているとのこと。そこから行政が回答するものも多いようであるが、逆に、意見交換を行い、時間をかけて回答するものなどは少なそうである。

委員 5

中学生や高校生との意見交換会が実施できたことは素晴らしい。ぜひ小金井でもトライしたいところである。

委員 6

市民全員を対象とした場合には全体の議会報告とともに、各常任委員会に分かれて市民との意見交換を行っていることや団体との意見交換会の取組など、参考になる取組であった。中学生・高校生との意見交換は、議員の仕事を知ることができた、投票に行きたい、意見交換会を継続してほしいなどの感想が出されたとのことである。実際に行ってみることが大事との意見もあり、今後の検討に役立てていきたい。

委員 7

平成26年度から令和元年までは不特定多数を対象に、令和2年（令和3年3月まで含む）は個別の団体を対象に、令和3年度は中学生を対象に意見交換会を開催している。意見交換の内容は、市報（の議会報部分）にQ&A形式で掲載している。意見交換会での個々の議員の発言は個々の責任で実施している。大変意欲的に取り組んでおられ、小金井市議会においても速やかに実施していくべきだ。

視 察 概 要

【視察日程】 令和4年4月26日

【視察先】 愛知県江南市

【視察項目】 タブレット端末の利用について

【視察目的】

タブレット端末等の導入について視察し、議会におけるタブレット端末導入等の検討に役立てるため

【取組の概要】

1 タブレット端末等の導入の経過

- (1) 2016年（平成28年）に、ICT推進検討委員会（議員7名、総務課2名、議会事務局2名）を設置した。その後、尾鷲市議会を視察し、同委員会で導入することを確認し、各派代表者会議で導入を決定した。
- (2) タブレット端末等の導入経費については、次年度予算の計上に向けて使用及び内容等を検討し、本経費を含む2017年度（平成29年度）当初予算を議決した。
- (3) 2017年（平成29年）4月に、指名型プロポーザル方式によりペーパーレス会議システム（SideBooks）を選定し、指名競争入札によりタブレット端末及び議場周辺通信回線架設（Wi-Fi等）を契約した。
- (4) 2017年（平成29年）5月から、タブレット端末（iPad）と会議システム（SideBooks）を利用開始した。二度の議員向けの操作研修会を開催し、6月定例会からペーパーレス会議の運用を開始した。
- (5) タブレット端末から議場の大型モニターに資料が表示できるようになっている。

2 タブレット端末等の導入の効果等について

- (1) 経費については、導入経費が1,672,812円、経常経費が1,451,136円となり、2021年度（令和3年）からタブレット端末が再リースとなったため、端末のリース代は約10分の1となっている。
- (2) 行政との連携については、行政側のタブレット端末の導入が見送りとなったため、特段の連携はない。行政からPDF化した議案等すべての会議資料データを送付してもらっている。

なお、議会から行政に対して、紙資料は希望する会派へ配布し、予算書等の冊子は希望する議員に準備するよう依頼している。

- (3) タブレット端末等の導入の効果としては、「資料が見やすくなり、審議が深化（議会の活性化）したことにより、市民の福祉の向上につながった」、「資料の差し替えが容易（メモを残したまま差し替えが可能）になった」、「紙及び労働時間の削減（人件費や電気代を削減）ができた」とされている。

また、課題としては、「操作に関して議員の研修が必要である」、「議員間に温度差がある」、「タブレット端末等の導入及び維持に関して予算の確保が必要である」ことなどを挙げられている。



【所感、課題等】

委員 1

実態として苦手な議員もいらっしゃるようだが、希望者には予算や決算等の資料は配布する措置をとっている。実際にタブレット端末を操作させてもらい、江南市議会の皆様から手取り足取り教えてもらえたことは良かった。導入効果として強く述べられた「審議が深化した」という点は、住民福祉の向上につながる最たる効果であり、小金井市議会としても研修や移行期間等を担保しながら具体的な導入に向けた議論に進化させるべきである。

委員 2

視察の際、実際に触らせていただき、使い方を教えていただいたのは大変良かったと思う。既に資料が紙ではなくタブレット端末内のデータになっていたという 1 期生の議員の方々の様子を見ていて、確実に時代の変化が来ていることを感じた。また、既に 500 自治体で実施されていることを伺い、切り替える時期に来ていることを改めて感じた。

委員 3

実際使用されているタブレットの操作方法を実践的に教わり、理解が深まった。導入時、行政側で使用していないシステムであったため抵抗があったということであるが、この点はどこも同じであろう。むしろ、一般質問の本人資料等がタブレットからモニター（現本会議場にはないが）に映り、傍聴者や動画中継を視聴する方にも見えるようになること、行政資料がスマホ 1 台で持ち歩けることは、市民に対する説明にも寄与すると考える。

委員 4

担当委員会の皆様方から実機を用いたご説明をいただいたが、「自宅や他の現場では最新技術の中で活動していて、議会になると一昔の環境での活動となり、不便ではないのか」という趣旨の問いかけには、返す言葉もなかった。ペーパーレスによる、紙代の削減はもちろんではあるが、今や、そのことを持ち出すまでもなく、コストに見合ったパフォーマンスを発揮するためにも、必須とも言える環境であることを実感できた。

委員 5

江南市議会の新人の議員が 5 人も説明員で参加されていたこと自体がすごいと思う。大変に丁寧な説明であり、フレンドリーな交流もできた。見習うべき視察対応と考える。タブレット端末の利用については他の自治体の状況も踏まえ参考にしたい。

委員 6

タブレット端末は導入して 5 年以上が経過し、既に当たり前になっている印象であった。実際に操作してみて、基本的な行政資料や議会資料等が閲覧できることやメモ書きができることなど有効性を感じた。一般質問などでの活用なども紹介されており、今後のタブレット端末導入の検討に役立てたい。

委員 7

タブレット端末を 1 人に 1 台用意していただき、実際に体験させていただいた。大変使い勝手が良く、検索性にも優れている。小金井市議会においても議会費に一定の不用額が生じる本年度及び来年度においてイニシャルコストを予算化し、1 議員 1 台のタブレット端末の導入を急ぐべきである。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 497,000円

〈内 訳〉 委員旅費	@ 41,750円	× 10人	=	417,500円
	1人当たり旅費	交通費		23,340円
		宿泊費		12,810円
		日 当		5,600円
職員旅費	@ 39,750円	× 2人	=	79,500円
	1人当たり旅費	交通費		23,340円
		宿泊費		12,810円
		日 当		3,600円

2 執 行 額 452,740円

〈内 訳〉	交通費	253,550円
	宿泊費	140,910円
	日 当	57,600円
	キャンセル料	680円

3 差 引 残 44,260円

※ 委員1名の欠席のほか、視察先の送迎により路線バスを使用しなかったため。